

病害虫発生予察指導情報 (ブロッコリー黒すす病、No.2)

令和4年9月9日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

9月9日現在、ブロッコリー黒すす病の発生量が増加しています。今後の気象条件によっては発病が急増する恐れがありますので、ほ場をよく観察し、防除を徹底して下さい。

2 情報の根拠

- (1) 園芸試験場における秋冬どりブロッコリーの本病試験ほ場の発病調査では、8月29日時点の発病葉率は0%であったが、9月7日時点で、発病葉率7.8%（県慣行防除区、定植30日後（9月5日）にパレード20フロアブル散布）、同17.0%（無散布区）と発病数が増加した（図1）。
- (2) 本病は、25℃付近が発病適温で、降雨により発病が助長される。向こう1か月の気象予報より、本病の発生量はやや多いと予想される。

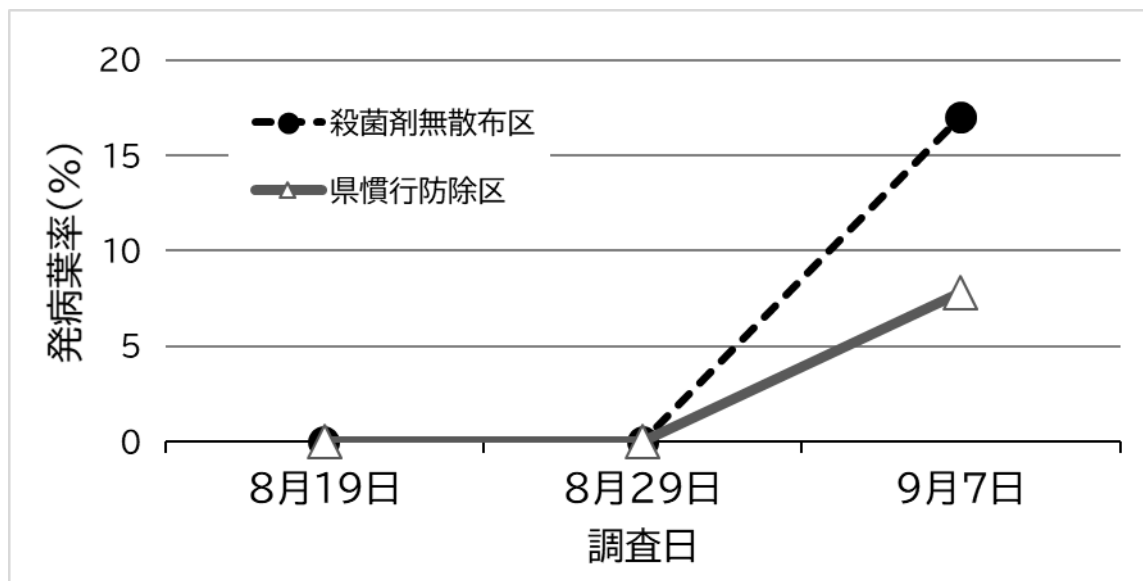


図1 ブロッコリー黒すす病の発病葉率の推移（鳥取県園芸試験場試験ほ場）

注）下位～中位葉の合計300葉（計60株、5葉/株）を調査した。

供試品種は‘SK9-099’、8月5日定植の10月上旬収穫作型。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 葉の病斑は、花蕾への伝染源となるため、ほ場の観察、特に下位葉の観察を重点的に行う。
- (2) 薬剤はアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル、シグナムWDG、パレード20フロアブル、メジャーフロアブル、ホライズンドライフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤を使用する。また、薬剤耐性菌対策のため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。